

平成29年度 「学力向上のための学校改善プラン」

校長名 一谷 浩之 教頭名 長谷川英昭 教務主任 南 和雄 研究部長 安田美加子 学校名 苫小牧市立清水小学校

教職員数 23 通常学級数 9 特別支援学級数 知的1, 自閉情緒1 児童数 250 PTA数 HPアドレス www.simizu-es1@city.tomakomai.hokkaido.jp

本年度の学力向上のための学校改善プラン「わかった できた 達成感」を合言葉に、全市で統一して取り組む「苫小牧市学力アクションプラン」を推進し、日常実践の授業改善を全教科へ展開していく。また、支えする「清水スタンダード」の作成するにあたっての基本的な考え方 徹底を徹底し、言葉づかいやあいさつなど、適切な言語環境を整える必要がある。

1 学校の状況	平成28年度末の状況	中間検証時の状況
	<p>国語や算数の授業で「課題」や「まとめ」を板書することができ、算数では「習得」と「活用」をバランスよく位置づける授業づくりを目指し、全校体制で取り組むことができた。その結果、教えなければならぬことを教え、基礎的・基本的な知識・技能の定着が少しずつ図られるようになった。ただ、他の教科に反映させるまでには至らなかった。平成28年度の全国学力・学習状況調査においては、平均正答率で国語Aは全国平均より4.8%下回り、国語Bは1.1.7%下回る結果であった。また、算数Aでは全国平均より1.5.5%下回り、算数Bでは6.1%下回る結果であった。苫小牧市統一学力検査の得点率においては、4年国語は0.6%下回り、算数は3.0%下回り、5年国語は2.7%下回り、算数は0.1%上回り、6年国語は1.1.4%下回り、算数は1.0.0%下回る結果となった。これらの結果から、自分の考えを説明する力や記述する力に課題があることが明らかになった。また、資料やグラフから読み取れることや考えられることで課題が見られた。</p>	<p>全国学テの平均点は、国語Aは0.2%上回り、国語Bは0.5%上回り、算数Aは0.6%下回り、算数Bは0.1%下回り、苫小牧市統一学力検査の偏差値は、4年国語4.6.7pt併用同等、算数は3%下回り、5年国語は2.7%下回り、算数は同等となった。6年国語は1.4%下回り、算数は10%下回った。全国学テ結果から、国語の領域別で「書くこと」、算数では「量と測定」の内容で、特に課題が見られた。さらに、昨年同様、自分の考えを説明する力や記述する力に課題が見られた。また、統一学テでは、学年別に異なり、4年国語は「書くこと」、算数は「数量関係」、5年国語は「言語事項」、算数は「数と計算」、6年国語は「書くこと」、算数は「数と計算」に課題が見られた。今後、課題が見られる領域を中心に取組を進めていく。清水スタンダードをどの教室でも学年が上らなくても統一して行ってきた成果は確実にあると思われる。</p>
2 学力向上の具体的な到達目標	平成29年度	中間検証
	<p>(1) 平成29年度全国学力・学習状況調査では、国語・算数とも全国平均を0.3%上まわる結果を目指す。 (2) 苫小牧市統一学力調査では、全教科全領域において全国平均を0.3%上まわる結果を目指す。 (3) チャレンジテストにおいて、80%以上の正答率を目指す。 (4) 宿題や家庭学習を進んで行った(Aと答える)と言える割合を70%以上を目指す。 (5) LITによる授業公開に、1人1回以上参観する。</p>	<p>プランの変更 有・無 考察(到達目標の見直しを含む) 全国学テや統一学テは、目標を上回ることができなかった。学年ごとに課題となる領域が異なるので、その部分を中心に取組を進めていく(上記参照)。また、学校全体として自分の考えを説明(記述)する課題があるので、授業に適宜入れながら改善を図る。宿題や家庭学習は、アンケートを取っていないので学校評価で確認する。さらに、LIT公開授業の参観者がほとんどいないので、今後計画的に行わせる工夫が必要(研究部を中心に)。改めて日常の授業改善の実践が大切になってくる。分かること楽しく学習できる⇒進んで家庭学習が行える</p>

3 学力向上の具体的な到達目標を達成するための今後の具体的な取組(項目別)

	主な取組内容	取組内容の評価指標	1学期			2学期			3学期			中間検証	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
指導方法・指導体制を含めた授業改善	算数科において習熟度別少人数指導やT T指導など、指導方法の工夫改善	3年以上で、T T指導100時間・習熟度別少人数指導125時間以上確保する。(3, 5年は単学級のため、T T指導50時間となり、1, 2年もT T指導50時間実施。	TT指導・習熟度別指導の授業実践									A B C D	今後ブロック校内授業研があるため、その中でも焦点化・イメージ化・視覚化を意図した授業作りを行う。前期を終えての数値目標80%を超えたかは未確認。書画カメラを活用して説明させる授業は定着しつつあるが、その方法などの交流が実施できれば、前期を終えての数値目標80%を超えたかは未確認。
	共通取組事項(本時の目標の焦点化・本時のゴールのイメージ化・ねらいとまとめの視覚化)をらまえた授業改善	すべての学級で年1回以上の研究授業(ブロック授業含む)を行う。すべての教科で焦点化した目標を立てた授業80%以上。すべての教科で視覚化した「ねらい」と「まとめ」を板書した授業80%以上。	全体及びブロックごとの研究推進										
	自分の思いや考えを説明し合う場の工夫	ペア学習やグループ学習、書画カメラを活用した授業80%以上実施。	日常的に実施検証 書画カメラ活用研修										
学習内容の定着および基礎学力の向上	4, 5年で、全国学テの過去問題の実施	過去問題の全国・全道平均同等の得点。無答率を5%以下とする。	随時過去問題の活用									A B C D	4, 5年での過去の全国学テの実施を確実にし、問題に慣れるようにする。チャレンジテストの結果を知るために、パスワードなどを知らせる担任が確認できるようにする。前期を終えての数値目標の達成については未確認。
	チャレンジテストの継続的な実施および分析	チャレンジテストの正答率80%以上。無答率を5%以下とする。	チャレンジテスト実施検証										
	漢字の習得、九九や四則計算などの習得	ミニテストや単元テストで正答率80%以上。	ミニテスト単元テスト実施検証										
学習習慣の定着	清水スタンダードの徹底を徹底	全教員が同じスタンスで児童の指導にあたる。課題とまとめが書かれた板書・ノート指導80%以上。	日常的に実施検証 学習規律の配布									A B C D	アンケート集約したものを活用し、児童や保護者を巻き込んだ授業や指導ができるような資料や教材準備をしていく。夏休み明けの生活リズム週間アンケートでは、家庭学習50分以上達成は65%。ただ、普段は90%以上であるため、この実績を大切にしたい。そして休み明けにも目標達成できるようにしたい。読書活動については、図書館司書の指導もあり充実している。ただ、数値も目標の達成については未確認。
	「家庭学習の手引き」を活用した家庭と連携した学習の習慣化	家庭学習時間「学年×10分+10分」の実施70%以上。宿題や家庭学習を進んで行ったと言える割合70%以上	日常的に実施検証 家庭学習の手引き配布										
	朝の時間や日常的な読書の充実および読書習慣の定着	月1冊、年間10冊以上の読書実施	日常的に実施検証 生活リズム週間アンケート実施で点検改善										

